

三陸の海を放射能から守る

岩手の会

三ニコ三通信 第36号

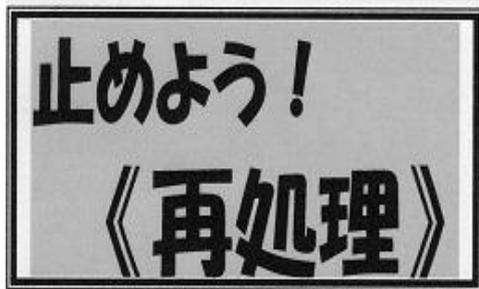
http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm

《岩手の環境 / R I 廃棄物 / 再処理》

* 署名用紙はここにあります

http://briefcase.yahoo.co.jp/k_imag

《まった再処理分庫》



2007 (平成19)年

5月5日

編集事務局 S.Oshida

TEL・FAX

019-623-1636

郵便振替

02240-5-102650



《放射能を流すな!》署名 第一次集約、1万1500人



一時間半で四六二筆
大通りに集まったのは、
盛岡市内会員が中心で、
他に、宮古の漁業者や遠
野、気仙に住む支援者も
含めて、総勢で二三人。
六ヶ所再処理工場の危険
を訴えるパネルを路傍に
立てかけ、放射能を海に



流すな」の横断幕を立て、
ハンドマイクで道行く
人々に「海を放射能で汚
してからでは遅い。署名
にご協力を!」と呼びか
けました。署名行動は十
一時から十二時半までの
短時間でしたが、四六二
人が署名をしました。
かなりの人が「再処理工
場」を知らない
チラシ(「止めよう!再
処理」三ニコ三三三号)

青森県六ヶ所再処理工場の廃液が下北の海を汚し
始めましたが、「三陸の海を放射能から守る岩手の
会」が提起した「海に、空に、放射能を放出しない
こと」「放射能除去装置で放射能を取り除くこと」を
国へ要請するための署名運動は全国各地で取り組ま
れています。第一次集約の五月連休直前までに、「岩
手の会」事務局に届いた署名の総数は、一万一五〇
〇筆を数えました。署名は全国三十三都道府県から
届いており、予想を超える広がりを見せています。
盛岡でも、桜や梅が一齐に満開となった四月三〇
日、「盛岡城跡公園」近くの繁華街の大通りで署名行
動が繰り広げられました。岩手では、宮古や気仙な
ど各地で運動が進められています。



を九百部準備し、道行く
人々に「六ヶ所再処理工
場を知っていますか?」
と話しかけながら、説明
を加え署名を訴えました。
驚かされたことは、隣
県青森に設置され、これ
から悪影響を受けようと
している岩手なのに六ヶ
所再処理工場について
「よく分からない」とい
う人が多かったことです。
「再処理工場は原子力発
電所だと思っていた」と
か、流される廃液は管理
されていて放射能は少な
いはず」とかいう言葉が
返ってきました。

原発の基準値の一四〇
〇倍の放射能数値に驚
き
「六ヶ所再処理工場は、
一月には、原発の基準
値の約一四〇〇倍もの濃
度の放射性廃液を流した
化学工場です」と説明す

わざわざ引き返して署名
をしてくれた人もいまし
ました。私たちの話を聞いて
くれた人はほとんど署名
してくれました。
今回の署名行動につい
ては、岩手県内テレビ局
一社と青森県内新聞社一
社が取材し報道しました。



アースデイで署名千五百筆

岩手から3人参加 「止めよう！再処理」 訴えに反響



アースデイTOKYO『ポラン広場』にて

きました。同じく私たちの活動にご協力いただいた『STOP・ROK K ASYO』ブースが近かったことも幸いし瞬間

に約八五〇筆もの署名が集まりました。アースデイにおける署名運動への大きな反響は、私たちの運動が大きな共感の輪を広げて限りなく前進していることを確信させました。

高知県東洋町町長選挙

高レベル廃棄物調査反対派勝利 「岩手の会」から連帯の挨拶状送付

油断禁物！

アースデイの四月二十二日、高知県東洋町町民は、高レベル廃棄物最終処分場調査反対派の沢山保太郎氏を圧倒的多数で町長に選出しました。

この「高レベル放射性廃棄物処理計画」は、再処理工場から出る廃液をガラスと一緒に固めた物（「ガラス固化体」といいます）を三十五十年ほど水中で保管し、減衰し

たものを地下三〇〇メートルに埋設して数百年間隔離・管理しようというものです。ガラス固化の技術も未だ確立されていないとは到底いえない技術です。

「人がそばに立つと数秒で死に至る」ほどの放射能を持ち、高熱を発生するため冷やし続けなければならぬこの代物を気の遠くなるほど長期間安全に封じ込めていられる保証はまったくありません。

今回の東洋町長選挙では、国のなりふり構わぬやり方が鮮明であったため多くの町民が拒否反応を示して阻止することができました。しかし、この結果を見て今後違ったアプローチで全国の過疎地、赤字自治体を狙って策を弄（ろう）してやることは必至と思われれます。再処理の、また、最終処理についての、情報が全国津々浦々に行き届くことがますます重要になっていくと考えます。

県に、高レベル廃棄物が蓄積されてゆくことは、岩手にとつて、海への放射性廃液放出とともに、看過できない問題であり、再処理工場の停止が緊急の課題となっています。

三月の放射能廃液放出状況

日本原燃（株）のホームページは四月三十日、前月三月分の、放射能排出状況を掲載しました。

それによると、三月にはウラン換算で二七トンの使用済み核燃料一四五体を処理しました。放射能廃液の放出は、この一年で最も多い九回で合計五〇二キロリットルに達し、トリチウムが九兆九百九十九億九千九百九十九、ヨウ素129が三八〇〇万ベクレル、ヨウ素131は二〇〇万ベクレルでした。九回の放出のうちでもっとも濃い放射能液を流した日は、トリチウムは、三月三日で、一般原発の濃度規制値の約八〇七倍に達していました。ヨウ素129は三月三十一日に四・五倍でした。昨年四月以来流されたトリチウムは四九四兆ベクレルで、本格操業時の年間管理目標値の二・八%に達しました。このトリチウムの量は、万が一飲み込んだ場合、一二七二人を死亡させる分量の毒物です。下北の海の生態系破壊が憂慮されます。

四月二一日、二二日、東京代々木公園を中心に「アースデイ・東京・二〇〇七」が開催されました。二日間約十万人の出入と報じられています。岩手からそれぞれの思いを込めて三人が参加し、三陸の海を守るための緊急の課題である「海に、空に、放射能を流さない。放射能除去装置を付けよ」の署名運動を展開しました。

二二日、土曜日の夕方には有機農産物の流通を手がける『ポラン広場』（ポランオーガニックス）

「ズデリバリ」さんのお取り計らいで当会の二人がステージからPRする機会を頂きました。岩手からの「下北と三陸の海を守り、安全・安心な海産物を送り続けたい」という切々とした訴えは参加者の大きな共感を呼びました。この会場ではあつという間に六三〇筆の署名が集まりました。

翌日の二二日には、六ヶ所再処理工場を模したテントを作り資料を展示していた『Love or Die? Rock kasho』ブース前でもマイクを持つ機会を頂

アースデイ一九七〇年四月二二日、米国の環境活動家のG・ネルソン氏がこの日を「アースデイ（地球の日）」にしようとして提言し、当時全米学生自治会長だったスタンフォード大学学生のデニス・ヘイズ氏が運動を始め、全米で延べ二〇〇万人が「地球を守るための自発的行動」に参加した。一九九〇年には世界の二億人が参加する一大イベントとなった。日本でも札幌・京都・東京・兵庫・横浜などの会場を中心に多種多様な行動が行われてきた。